

なに 何が何でも

そな たい 備え隊★

すこ あんしん ひ なん じょ 少しでも安心できる避難所づくり かん れん し へ 関連死を減らそう編



さき ばし まえ ひ なん じょ よう す れい
支えあいが始まる前の避難所の様子(例)

- 通路がない
- 布団が敷き詰められている
- ペットがいる
- 臭いが悪そうなお年寄りがいる
- 喧嘩をしている人がいる
- 寝転んでいる人がいる
- 悪臭がしている



どこが
変わったかな?

ひ なん じょ かん きょう く ふう
避難所の環境を工夫することで、
かん れん し へ 関連死を減らすことができます!

し て い ひ なん じょ なに 指定避難所って何?

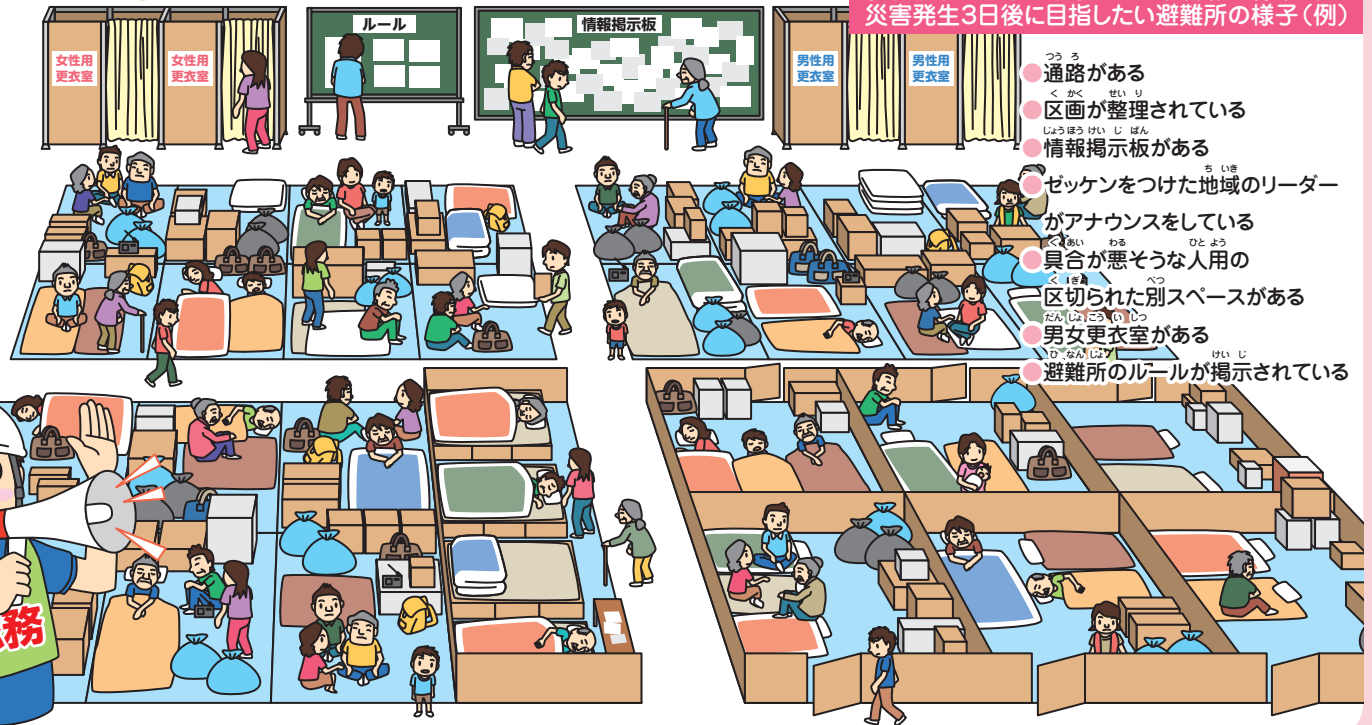
- 一定期間滞在し、避難者の生活環境を確保するための避難所です。
- 災害の危険性があり避難した人たちが、災害により家に戻れなくなった人たちが滞在するための施設です。市町村長が指定します。

※参照：災害対策基本法 第49条の7

かん れん し なに 関連死って何?

- 災害発生後の避難生活等で体調を崩したり、持病が悪化したり、ストレスや過労などが原因となる死を“関連死”といいます。
- 地震や津波、火災などの震災が直接的な原因となる死を“直接死”といいます。

さい がい ほっ せい か こ め ざ ひ なん じょ よう す れい
災害発生3日後に目指したい避難所の様子(例)



- 通路がある
- 区画が整理されている
- 情報掲示板がある
- ゼッケンをつけた地域のリーダーがアナウンスをしている
- 臭いが悪そうな人用の区切られた別スペースがある
- 男女更衣室がある
- 避難所のルールが掲示されている

すこ あんしん 少しでも安心できる ひ なん じょ 避難所づくりの7つのポイント

1. 声をかけあいみんなで運営しよう
2. 通路を確保しよう
3. 情報を共有しよう
4. 避難所運営組織をつくろう
5. 要援護者に配慮したスペースをつくろう
6. 男女更衣室をつくろう
7. 避難所のルールをつくろう



うら めん くわ 裏面で詳しくみてみよう!

少しでも安心できる避難所づくりを目指そう!

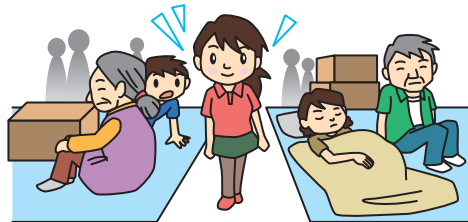
1 声をかけあい みんなで運営しよう

- ◎避難所には、たくさんの方が避難する場合があります。
- ◎挨拶や声かけが、安心・安全につながります。
- ◎掃除、配給、体操など、こころと身体の健康に気をつけ、みんなで助け合って運営することが大切です。



2 通路を確保しよう

- ◎通路があると、トイレに行きやすいです。
- ◎情報の確認や物資をもらうための移動もしやすいです。

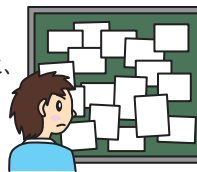


3 情報を共有しよう

- ◎大勢で情報共有するためには、工夫が大切です。
- ◎スピーカーは停電の時も情報発信に活用できます。



- ◎紙に書いて貼っておくと、後から確認ができます。
- ◎ふりがながあると、小学生も情報が読めます。



4 避難所運営組織をつくらう

- ◎班を決め、役割分担をして運営します。
- ◎地域のリーダーと避難者の人が協力することが大切です。



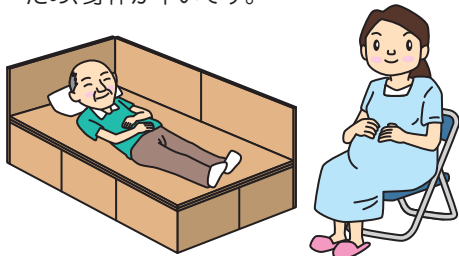
例 総務班、食料班、情報班、要援護者班、物資班 など

学校の生徒会
みたいだね。
私たちも何かお手伝い
できそうだね。



5 要援護者に配慮したスペースをつくらう

- ◎高齢者や妊婦さんなど、要援護者の方が少しでも安心できる場所が大切です。
- ◎避難所は床が固くて冷える場合が多いため、身体が辛いです。



6 男女更衣室をつくらう

- ◎着替えは体の衛生を保つために大切です。
- ◎更衣室があると、安心して着替えることができます。



7 避難所のルールをつくらう

- ◎いろいろな人が生活をするので、ルールが大切です。
- ◎避難者の人も一緒に考えて決めることが大切です。

例

- 起床・消灯時間
- 食事時間
- 掃除時間
- ゴミ捨てのルール
- 飲酒・喫煙のルール



小中学生も活躍しました



小さい子どもの遊び相手



高齢者の方との交流